

2つのスキー場が連結して誕生した 広大なフィールド「星野リゾート ネコマ マウンテン」を訪れて

編集ライター 太宰 由起子



14年の月日を経て 実現した 夢のプロジェクト

昨年12月、旧アルツ磐梯と旧猫魔スキー場の2つが連結して「星野リゾート ネコマ マウンテン」が誕生。連結したことでのゲレンデ総面積189ha、コース数33、リフト13本を数え、国内トップ10に入る広大なフィールドに！2009年に旧アルツ磐梯と旧猫魔スキー場の「連結プロジェクト始動」というニュースが発表されてから実に14年の月日が経っていた。発表当時、スキー専門誌『月刊スキージャーナル』（2017年発行元の出版社倒産）の編集部にいた私は「連結プロジェクト始動」について執筆したことを思い出し、その長い道のりを想い、胸アツに…。連結プロジェクトが始動した2年後、東日本大震災による風評被害が福島県を襲い、2020年には世界のあり方を激変させた新型コロナウィルスが流行するなど、いくつもの障壁を越え、ついに夢を実現させたのだ。



尾根をまたいで架けられた連結リフト「ニャルツチェア」で約7分で行き来が可能。車だと約1時間かかる

旧アルツ磐梯＆旧猫魔は、固定ファンを大切にし、国内でもっともシーズンパスホルダーを抱えるスキー場の一つ。連結によって2つのスキー場を滑れてリフト1日券5,500円（2023／24シーズン）はかなりお得！リフト料金高騰の今、国内スキーヤーにとっては感涙もの。愛されスキー場は、さらに愛されるビッグスキー場へとグレードアップする。

旧アルツ磐梯を「南エリア」、旧猫魔スキー場を「北エリア」とし、どちらからでも乗車できる750mの連結リフトは、公募によって「ニャルツチェア」と命名され、約7分で行き来が可能。2019年に「雪上徒步ルート」を開通させ、リフト券を共通にすることで、2つのスキー場の行き来はできていたが、片道約20分、スキーやスノーボードを担いで雪道を歩くのは、運動習慣のない人たちや体力に自信のない人にとってはなかなかのハードワーク（私もちょうど遠慮したい）。連結リフトの稼働により誰もが、気軽に2つのスキー場を堪能でき、楽しみもお得感も2倍。ブナ林に囲まれた雪上徒步ルートはファンも多く、現在も残されている。

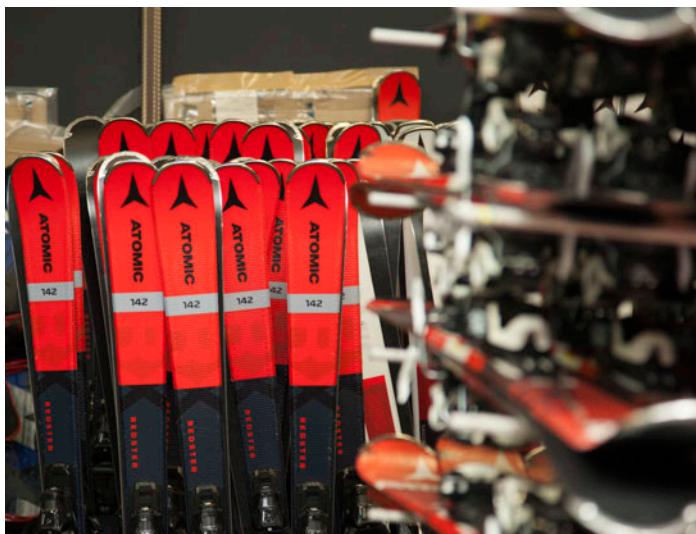
南エリア（旧アルツ磐梯）は、会津のシンボル、磐梯山と猪苗代湖の絶景を望める開放的で明るい南斜面のゲレンデ。クオリティの高いパークがあることで、“スノーボードの聖地”としても知られる。ゲレンデ下部にはスノーエスカレーターが設置され、ちびっ子やファミリー層にも人気。北エリア（旧猫魔スキー場）は猫魔ヶ岳の北斜面に位置することからミクロファインスノーに満たされ、降雪の翌朝はパフパフのパウダー滑走が楽しめる。

連結は、たんに広大なフィールドになったのではなく、つながったことで南からも北からもアクセスでき、山の南斜面と北斜面という、まったく個性の異なる2つのゲレンデを一度に味わえる、唯一無二の体験ができるのがビッグなメリット。このメリットをリアルに体感しようと取材を申請。広報担当の方から「暖冬・少雪の影響で、クローズするコースもありそうなので急いでいらしてください」と連絡を受ける。3月6日、急ぎネコマ マウンテンへ！

**個性の異なる2つの
ゲレンデを味わえる
唯一無二の体験**

南エリアから入り、まずはレンタルコーナーへ。ご存知のとおり、スキー旅行に持っていく荷物は多くて重くて大きい。スキーにブーツにウェア、ゴーグル、グローブ……最近ではヘルメットも。久々にスキーしたいと考えるシニアや、年に1、2回スキー旅行を考える人たちにとって、スキー用具一式は、揃えるのも、旅に持っていくのもかなりの負担。「レンタル＝ダサい、初心者」という方程式は今は昔（ではないところもあるが）。ニューモデルやエキスパートレンタルをアピールするスキー場もあり、古いマイスキーよりもレンタルのほうがクオリティが高いという場合もしばしば。久しぶりの大人世代にはレンタルがおすすめだ。

メンテナンスの行き届いたスキーと履き心地のよいブーツ、ストック、ヘルメットをお借りし、ウェアはボード系の可愛いデザインが豊富で選ぶのも楽しい！「手ぶらセット」なら、グローブ、ニット帽、ゴーグルがプレゼントされるから、誰もがノーストレスで雪の世界を満喫できる。全身レンタルでキメて、目指すは連結リフト「ニャルツェア」！



レンタルコーナー充実
整備が行き届いたスキー＆ブーツがズラリ



可愛いデザインのウェアにテンションアップ



フルレンタルでキメる（ゴーグルは私物）
左手のゴーグル、ニット帽、グローブは
プレゼントしてもらえる

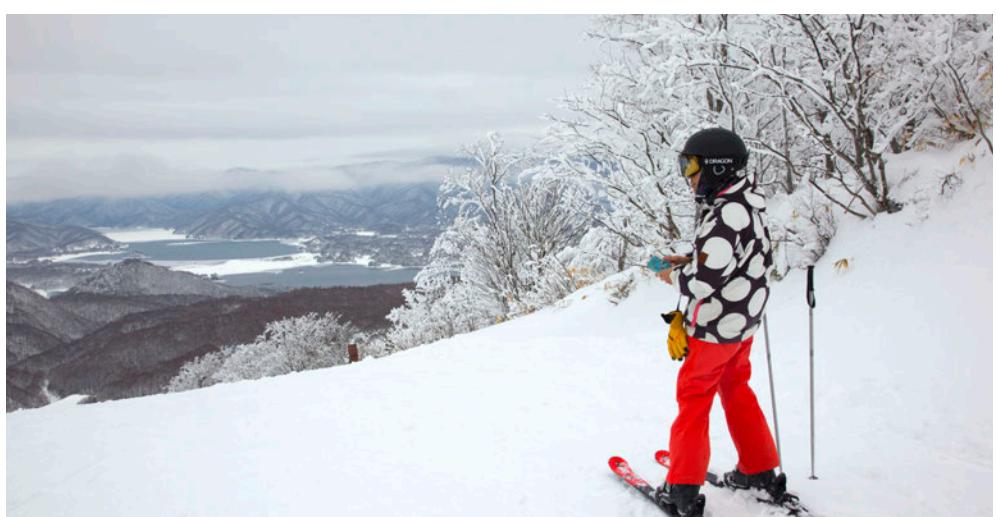
ドラマチックに 風景が移り変わる 乗るだけで楽しい ニャルツチェア

「ニャルツチェア」は、北エリアからはリフト2本、南エリアからは初級者コースのみでもアクセス可能。南エリアから乗車し、美しい霧氷で化粧をした樹々の間をゴトゴト揺られていくと、徐々に空気感が変化し、移り変わる景色はロードムービーのようにドラマチック！ 北エリアに到着すると、眼下には、山々に囲まれた桧原湖が静かに浮かび上がる。日本ではあまり、というか私は見たことのない風景。たなびく雲と幻想的な湖のコントラストが北欧の絵本のよう。

「ニャルツチェア」降車後、北エリアで待ち構えるのは、上級者コース、中級者コースのみなので、初級者は乗車を避けてしまうかもしれないが、それはもったいない。絶景観光リフトとして往復乗車するだけでも価値あり！ この日は、残念ながら北エリア名物、ミクロファインスノーには出会うことはできなかったが、ファットスキーがあれば、上級者でなくとも、ディープパウダーの海に楽にドロップインできそう。



ネーミングが可愛い連結リフト「ニャルツチェア」



南エリアからガラリと風景が変わって幻想的な北エリア

南斜面と北斜面を堪能後、お楽しみのランチは、今シーズンオープンした南エリアの中腹にある「The Rider's」へ。

室内にはビリヤードやスケートランプがあって海外のリゾートのような雰囲気。昨今は、人気のスキー場の多くが“ゲレ食超え”のクオリティを誇るメニューを提供するが「The Rider's」一押しのライダーズバーガーとソースカツサンドも、期待通りの“ゲレ食はるか超え”。



このボリュームでライダーズバーガー1,500円、
ソースカツサンド1,400円は◎



2階は開放的でオシャレなダイニングフロア

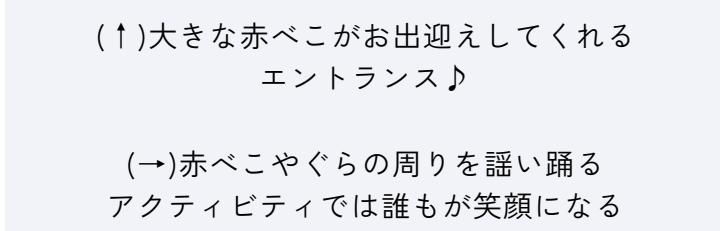
スキー場連結のトピックとともに注目されたのが、南エリアと直結するホテル、星野リゾート 磐梯山温泉ホテルの「14時チェックアウト」。連結を機に増やしていくという「スキーヤーファースト」の取り組みの一つ。午前中に滑って、ランチを食べて、温泉に入ってから、ゆっくりと帰り支度ができるというわけだ。チェックアウト後も温泉利用が可能というおまけ付き。

ホテルに入ると、会津の民芸品「赤べこ」がお出迎え。会津の伝統工芸をしつらえた客室、郷土料理が食べられるビュッフェ、会津の地酒が味わえる「会津SAKE Bar」、会津民謡の生演奏に合わせてスタッフと一緒に踊るアクティビティ「あいばせ！踊らんしょ」など、会津地方の伝統・文化をダイレクトに感じられる仕掛けが満載。会津を愛し、接客にプライドを持ったスタッフの温かいおもてなししが心地いい。一度訪れたら“会津ファン”になってしまうだろう。知り合いのファミリー宅には、絵付け体験で作った赤べこが今でも大切に飾られている。

「14時チェックアウト」! ゆったり最終日の幸せ



(↑)大きな赤べこがお出迎えしてくれる
エントランス♪



(→)赤べこやぐらの周りを謡い踊る
アクティビティでは誰もが笑顔になる





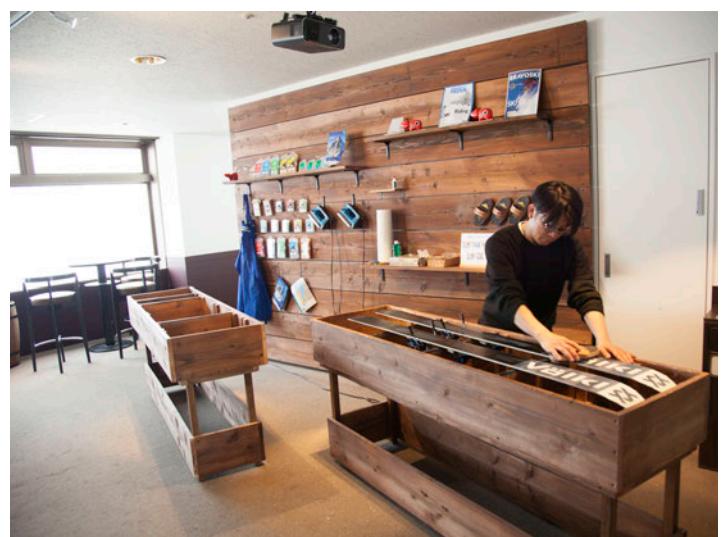
和のくつろぎと洋の快適さをミックスした会津モダンスイート



2階は広々としたベッドルーム



自由に飲める「日本酒セラー」付き
日本酒好きにはたまらない



ホテル宿泊者が利用できる無料のワックス
コーナーが新設され、コンディションに
合わせたワックスを試すことができる

連結はゴールではなくスタート。 北海道でも長野でもない独自の文化構築に期待

ネコマ マウンテンから車で30分圏内には、白虎隊ゆかりの「鶴ヶ城」、日本三大ラーメン「喜多方ラーメン」、米どころ会津の酒蔵見学など、会津の歴史・文化体験ができる観光スポットが点在している。ホテルにも会津の魅力はあふれているが、広報担当の方から「ぜひ、地域の観光スポットを訪れてみてください」と、榮川（エイセン）酒造へ連れて行っていただく。日本名水百選の一つで仕込んだ日本酒の試飲をさせていただき、染み渡る美味さに感動。お土産に2本購入。

14年かけて実現した2つのスキー場の連結はゴールではない。広報担当の方は「冬の地域経済のハブとなるべく、地元と連携を組み、北海道でもない、長野でもない、会津地方を丸ごと楽しむネコマ マウンテンならではの文化を築いていきたい。ここからが新たなスタートです」と語ってくれた。

はじまったばかりのネコマ マウンテンの可能性は無限大。2023／24シーズンの滑走日数71日（4月17日現在）という、星野佳路代表の次の一手を楽しみに、来シーズンも訪ねたいスキー場だ。次はぜひ北エリアのパウダーを食いまくってみたい。



周辺には観光スポットが点在。酒どころ会津には酒蔵も多く、
今回は、榮川（エイセン）酒造の試飲ができるショップ「ゆっ蔵」を訪ねた

太宰由起子／DAZAI Yukiko

編集ライター

月刊スキージャーナル編集長を経て独立。現在、フリーペーパー『ファミスキ.jp』の外部編集長を務めるほか、スキー、スポーツ、ボディワーク、健康、医療など幅広い分野の雑誌・WEBの企画・編集・ライターとして活動。2022年、大人世代のための新しいスキー雑誌『SKI CLASSIC』の創刊にも携わる。元女子ラグビー日本代表という異色の経歴を持つ。

一般財団法人 日本鋼索交通協会理事、日本スキー産業振興協会理事